

●シリーズ●わが町の文化財へ91

世羅町重要文化財 円筒はにわ残欠

昭和63年2月9日指定



この埴輪はにわ（朝顔形及び円筒形）は、京丸天王山墓地内から墓石を納地する際に発見されたもので、付近には古墳の竪穴式石室があります。円筒埴輪は、古墳の墳丘に美観を添えるためと封土（盛土）の流失を防ぐために埋設されたものです。上部3分の2は封土より露出していたため、壊れており、上部に広がりを持つアサガオ形の部分の破片5個、隆帯のある基部、透かし孔のある破片数個が出土し復元されたものです。現在保管されている埴輪片は表面採取により得られたもので、世羅郷土民俗資料館に展示されています。町内にはこの古墳のように、円筒埴輪をめぐらすものが数基発見されています。

●シリーズ●わが町の文化財へ92

世羅町重要文化財 野原八幡神社鳥居

昭和62年11月11日指定



初建は、永正元年（一五〇四）九月大旦那小森連実によるもので、延享四年（一七四七）崩壊のため、後年の宝暦元年（一七五一）に木造鳥居を再建、その後、文政十二年（一八二九）石造鳥居が建立され現在に至っています。大きさは、柱の高さ2.25m、柱の周囲1.17mです。野原八幡神社は大宮八幡宮ともいわれ、古くは中世庄園津くちのしやう口庄の総鎮守社でした。氏子の範囲は、津口・青水・小国・賀茂・黒川・篠・蔵宗・萩原・萩原福田・上徳良・下徳良と広範囲に11ヶ村にも及ぶもので、鳥居の金石文はこれを証明する貴重な遺品です。尚、この地から東方約200mの山中には、旧野原八幡神社石造鳥居があります。